

# 2025年度(総合型選抜)AO選抜入学試験

## 国際関係学部「グローバル・スタディーズ専攻総合評価方式」

### 1. 実施状況

#### (1) 志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻等	志願者数	一次合格者数	最終合格者数
グローバル・スタディーズ専攻	67	37	29

#### (2) 本入学試験の目的

「グローバル・スタディーズ専攻総合評価方式」は、国際関係学部 国際関係学科 グローバル・スタディーズ専攻への入学を志望し、国際社会の諸問題に対して高い関心と探求心を持ち、自発的に学習に取り組むことができる方を受け入れるための入試方式です。

単なる学問的な理解力や分析力だけではなく、国際社会の諸問題を自分事として捉え自らの考え方や意見をしっかりと持ち、将来的に、行政・経済・文化・平和といった観点から社会に貢献できる可能性を秘めた方の選抜を目的としています。

### 2. 試験内容

#### (1) 第1次選考

出願書類（英語外部資格試験の証明書を含む）を総合的に評価しました。

今年度は出願時に以下の1つのエッセイの執筆を出題しました。

エッセイ: Please describe the subject or field you wish to study at the College of International Relations, together with your reasons and experiences. (within 500 words)

#### (2) 第2次選考

英語による面接試験（対面）を実施しました。

### 3. 出題の意図

#### (1) 第1次選考

上記で示したエッセイを受験生に出題した意図は次の2点です。

- 受験生が、グローバル・スタディーズ専攻での学習に意欲を有しているか、同専攻の育成目標やカリキュラムを理解しているかを判断するため。
- 受験生が現代の国際社会の諸問題への関心を有しているか、必要な基礎知識を有しているか、大学で学ぶために必要な基礎学力、論理的思考力、英語での文章作成能力を有しているかを判断するため。

#### (2) 第2次選考

英語による面接試験では、受験生に、①英語による専門科目を履修し、国際関係学の高度な知識を習得していくための十分な英語運用能力（特に会話能力）があるか、②自らが執筆したエッセイの内容について、口頭で論理的に説明し、議論できる基礎学力があるか、③国際社会の現代的諸問題について、様々な文化的背景を持つ学生と共に学び、多角的に捉える力を養い、自らを高めたいという強い意欲があるか、を確かめることを意図して行いました。

## 4. 評価のポイント

### (1) 第1次選考

- エッセイについては、以下の観点を中心に評価を行いました。
- ①志望理由が明確かつ具体的であるか
  - ②自らの体験や動機を大学での学びに関連付けて論じているか
  - ③現代国際社会の諸問題をどのように理解しているか、多角的に捉えているか
  - ④英語で論理的に文章を構成できているか

### (2) 第2次選考

英語での面接を通じて、以下の5点を中心に評価しました。

- ①志望動機が明確かつ具体的であるか
- ②英語による専門科目を履修するための十分な英語運用能力があるか
- ③面接者の質問を正確に理解し、意見を論理的に述べる力があるか
- ④大学での学びを支える基礎学力があるか
- ⑤国際社会で将来活躍できるような適応能力が認められるか

## 5. 解答状況

### (1) 第1次選考

英語に関しては一定レベル以上の能力を有した志願者が集まりました。エッセイのなかで、国際関係への関心・知識を有しているか、文献などを参照しながら、自身の考えを、個人的な主張としてではなく、エビデンスをもって多角的かつ客観的に述べることができているかという点で、評価の差がつきました。

### (2) 第2次選考

スピーキング力はおおむね高いです。国際関係学部のカリキュラムや専門科目について事前に調べ、自身の関心や将来のキャリアパスを、国際関係学部の学びと結びつけて説明できる受験生も一定数いました。一方、面接におけるエッセイの内容についての質問では、エッセイに書いたこと以上の知識の広がりに欠けたケースや、回答が自身のエッセイ内容と一貫していないケースもあり、エッセイのテーマについて、より深い知識と思考を示すことができた受験生が高く評価されました。

## 6. 次年度の受験生へのアドバイス

日頃から新聞やテレビ、インターネットで取り上げられているニュースや国際問題に眼を向け、その問題について自分の頭で考える習慣をつけましょう。最近は多くの国のニュースが英語で発信されており、スマートフォンやタブレットで読むことができます。特に興味のある問題については、日本のメディアから発信される情報だけでなく、該当する国のメディアや関係諸国ではどのように伝えられているかを知ることも重要です。そうすることによって問題を多角的に捉える力が備わります。

また、卒業後の自分自身がこうありたいという将来像を描いてみましょう。そうすれば、自分が国際関係学部でどのように学び、それが自らの人生にとってどのような役割を果たすかが明確になるでしょう。

以上